

令和7年度 小平市立小平第二中学校 学校評価報告書

学校教育目標								
1 自ら考え正しく判断し積極的に実践する人間 2 明るく健康で情操の豊かな人間 3 社会の一員として協力し向上につとめる人間 4 相手の人格や立場を尊重する人間								
目指す学校像(ビジョン)								
【目指す学校像】 1 上級生が下級生のお手本になる学校、2 面倒見が良く、心の熱い教員のいる学校、3 落ち着いており、生徒・保護者・地域から信頼される学校 【目指す児童・生徒像】 1 自ら考え、正しく判断し、積極的に実践する人間、2 明るく健康で、情操豊かな人間、3 社会の一員として協力し、向上に努める人間、4 相手の人格や立場を尊重する人間 【目指す教員像】 1 面倒見が良く、心の熱い教員のいる学校、2 教職員一人一人が高い志をもち、組織力を高める教員								
前年度までの学校経営上の成果と課題								
○全国学力学習状況調査において達成率の向上が見られた。引き続き若手教員の授業力を高めるとともに、ユニバーサルデザインとICTを組み合わせた、分かりやすい授業づくりに取り組むことが課題である。 ○教員の時間外勤務時間(平均)を前年度比-11%、44時間削減することができた。さらに削減できるよう、行事や通知表の運用の見直しなどを行う。 ○これまで築き上げてきた生徒指導等における知の継承が引き続き課題である。								
	具体的方策	第1回評価		成果・課題・対策	第2回評価		学校関係者評価	成果・課題・次年度以降の対策
		取組指標	成果指標		取組指標	成果指標		
学力向上	授業の「ながれ」や「めあて」を示すなど、共通取組事項に基づいた授業実践を行う。	4	4	生徒・教員とも肯定的回答が80%を越えているが、管理職による授業観察や教員との面接ではこの数字より低い様子が見える。引き続きしっかり取り組めるよう指導していく。	4	4	生徒・保護者とも「わかりやすく教えてくれている」と評価されている。「授業を受けて内容がわかる」が80%以上である。目標値も高いが、生徒が高く評価している。	全国学力・学習状況調査生徒質問紙調査において調査項目の65.8%で全国や都の値より上回った(R4:35.1%、R5:22.5%、R6:35.1%)。ここ数年の中では過去最高の結果になり、これまで取り組んできた成果が現れてきていると考える。次年度も引き続き授業改善に努めるとともに校内研究とタイアップし生徒の学力向上に向け取り組んでいく。
	全ての教員が年1回以上授業を公開し、研究協議を実施する。	4	4	1学期は、第3学年で実施した。2学期は第2学年で、3学期は第1学年で実施し、教員の授業力を向上させていく。	4	4	授業研究・授業公開週間の取組は、4年間取り組む中で定着してきた。次年度も取り組む。定期考査の難易度を見直し、評価・評定を付けていくプロセスを丁寧に説明し理解を得られるようにしていく。	
健全育成(いじめ防止)	生徒会活動や学級での係・委員会、班活動に積極的に取り組ませるために、生徒一人一人の出番をつくる。	4	4	各教員が意識して取り組んでいると捉えている。今後も継続していけるよう教員への指導を行っていく。	4	4	いじめ対応、生徒会等の評価が高い。学級経営や生徒との関係が上手くいっているから、と捉える。いじめについて、学級での取組の回答は%で表示した方がよい。WEBQUに関して設問の在り方が難しい。生徒・保護者ともに教員の対応が見えにくいと思われる。(保護者は、いじめの設問へわからないが24%、WEBQUのFBが得られていないと感じている生徒が35.8%)	3年生を中心に行事や学校生活で「上級生が下級生のお手本になる学校」の姿を体現してくれた。この伝統が引き継がれていくように生徒一人一人の出番を確保し指導を継続していく。
	「ふれあい月間アンケート」を年3回、いじめ対策校内委員会を毎月第二火曜日に実施する。いじめを発見した際は組織的な対応で早期解決を目指す。	4	3	いじめの対応は、おおむねできていると捉えている。引き続き早期発見、早期対応を行っていく。	4	4	「ふれあい月間アンケート」や生活ノートを通して生徒の情報をつかみ、いじめを見逃さないようにできた。今後は、SNSに起因するいじめを起ささないために情報モラル教育について実践していく。	
	WEBQU等を年2回以上実施し、生徒の学級での生活状況を把握し、その結果に基づき指導・助言を行う。	4	3	WEBQUによって、生徒の内面の様子や学級内での立ち位置などを把握することができた。しかし、第1回目は実施時期が予定より遅れたこと、生徒・保護者へのフィードバックが不十分であったことから、次回では、適時適正にフィードバックできるようにしていく。	4	3	WEBQUを通し生徒の様子をつかみ、生徒・保護者にフィードバックすることができた。しかし、35.8%の生徒が十分なフィードバックを得られていないと感じていることから、きちんと時間を確保し、丁寧なフィードバックができるよう時間を確保するとともに教員の分析・活用スキルを向上させていくことが課題である。	
キャリア教育	外部人材を招聘した講演会を毎学期実施し、生徒が自身の生き方を考えられる機会を設ける。	4	4	外部の方からのお話を聞く機会を設けることで、生徒に好ましい影響を与えていると捉えている。10月にはCS主催の講演会で3名の方からお話を聞く予定である。	4	3	キャリア教育の質問の仕方を「いろいろな場面で考えている」から「～考える機会があった」など、少し変えてみてはどうか。CS講演会は学校・地域ともに良い取組であった。	今年度は、12の個人・団体の方にお世話になった。特にCS主催の講演会では、生徒自身の生き方に響いた様子が感想からうかがえた。次年度も継続して実施していく。
	毎学期「キャリアパスポート」のまどめを通して、自己理解を促進させる。	4	4	今年度から通知表の1、2学期の所見の代わりとして位置付けた。校内での取扱いについても共通理解がされた。今後は、保護者の声を聞きながらより良い活用を目指し、生徒にとって有益なものになるようにしていく。	4	3	今年度は、通常の学級において通知表の所見の一部代替としたため、記録としての価値を高めていけるよう意識的に指導していくことができた。次年度以降も主旨を忘れないようにして継続していく。	
	生徒が主体的に関わる生徒会、委員会、実行委員会活動を実施するために、生徒(役員、実行委員等)が進行する場面を設定する。	4	4	生徒が主体となって取り組む活動はよく取り組まれている。今後も継続していく。	4	4	生徒会活動やRIKUTAI、合唱コンクールなどの学校行事で生徒が主体的に関わる場面を多くつくることができた。引き続き取り組んでいく。	
業務改善・働き方改革	時間管理について「緊急ではないが重要なこと」の取組に注力するよう適宜指導を行う。	3	3	一月当たり80時間を超える教員が複数名いた。教員との面接をしたり、定時退勤の取組を進めたりしていく。	3	4	令和6年度と比較し、平均の時間外勤務時間が3時間、率で0.07%増加した。時間外勤務時間が長引く教員が一部いるので、仕事分担の見直しを行っていくとともに、定時退勤の取組を継続していく。	
	「掃除DAY」の取組を毎月末に実施し、働きやすい環境を整える。	4	4	「掃除DAY」の取組を通して教員の意識が高まりつつあるが、働きやすい環境にはまだなっていない。引き続き取り組んでいく。	4	4	「清掃DAY」の取組については91.6%の教員が肯定的な回答をしている。今後も調査や面談を通じて教員からの意見や要望をつかみ、実行可能な取組に対し具体策を講じていく。	